

拡散問題 についで

# 非核パワー

# 「敗北主義」貫き疑念払え

核兵器を一掃し、安全な世界にするこ  
とが後世への責務ではないか。核と決別  
する確かな一歩を踏み出す時だ。

二〇〇三年、ついに日( 鮮 ) がテポドン開発のすえ  
本が核保有を決断した。米 核を持ては韓国も追随し、  
政府は「どうするか」——そ 日本も核開発に踏み切ら  
んな警告を出して、今年末試験 そんな想定をアリソン氏は  
は始まった。

舞台はハーバード大学。  
出題者は、キューバ危機分  
析で世界的に知られるグレ  
アム・アリソン教授。朝鮮  
民主主義人民共和国(北朝



明する。  
今秋、念願の国務省に採  
用が決まったレイチェル・  
ドリングスレーさん(以下は  
「日本の協力打診を拒み、  
核開発を阻止せよ」と答え  
た。評価はクラスで一割に  
満たないA。  
しかし、日本人留学生に

## 日本核武装論

る古川勝久さん(以下は「ア  
シアの安全保障上の脅威  
は、日本に核武装を迫るシ  
ベルにない」と答えた。評  
価はAに届かないBマイナス  
だった。

とって、この質問は唐突な  
印象をぬぐえなかった。米  
国のシンクタンクに勤務す

防衛庁内に封印された二  
つの報告書がある。「大量  
破壊兵器の拡散問題につい  
て」と題した冊子は、一九  
九五年に当時の島山審事務  
次官の指示で制服組や若手  
官僚がまとめたものだ。

北朝鮮の核開発懸念をき  
っかけに広げた日本核武  
装の疑念に対し、「日本が  
核武装した場合に利点があ  
るのか」と物言いの猪俣  
から反論を射た。「唯一  
の被爆国だ」と持たないと  
いう感情論は国際的には全  
く通用しない(執筆者の  
一人、山口県将補)との  
反省からだった。

善悪の立場からではなく、  
費用対効果や国際社会での  
信用問題の損得勘定から、  
日本の核武装は国益に合わ  
ないと結論つけた。いまフ  
シントンの防衛駐在官とな  
った山口陸将補は「日本は  
核保有競争に参加しても意  
味がない。核の世界では敗  
北主義者で構わない」と語  
る。しかし、研究は内部向  
けだったため公開されず、  
日本は「非核の国益」を喪  
ちんと世界に発信できない  
ままだ。